

自らの資質を磨く



秋鹿 真人 さん
(取立)

成人式に出席し、二十歳の自覚を新たにしています。

で机を並べていた友人たちが、今はそれぞれ違った道を歩み、活躍していることに、ちょっととした戸惑いと、新鮮な刺激を味わいました。また、自分もしっかりせねばと、身の引き締まる思いです。

時代」と言われます。首都機能の移転も本格化し、地方に熱い視線が向けられています。そんな中で、私は成人の一人として、オリジナリティーのある「まち」づくりに向け、少しでも貢献できるよう、自らの資質を磨いていこうと思います。また、社会人の基本としての責任と自覚を持ち、行動することが、私の成人式を迎えるの抱負です。

全く変わっていない人、化粧の上手になった女の子など、久しぶりに再会した友人の姿や、恩師の先生方の温かいまなざしに、五年前に戻ったような懐かしさを覚えました。五年前には同じ制服を着て、同じ教室

入式を催してくださった、町長さんをはじめ来賓の方々、関係者の方々には、心から御礼を申し上げます。本当に、ありがとうございます。二十一世紀は、「地方の

最後は、これまで温かく見守ってくださった両親をはじめ地域の皆様へ感謝すると共に、今後も御指導宜しくお願い致します。

大人としての自覚を持つ



近岡 奈津子 さん
(東町)

入りをするのだろうかと考えてしまいます。

中学の同級生たちの変身ぶりでした。先生方も普段、道で会っても分からないというほどでした。男性はたくましくなり、女性はきれいになっていました。外見から見れば、やはり大人に見られるのだと思えました。

よく、「二十歳を過ぎると、もう大人」というふう言われます。でも、私自身「二十歳」という年を迎えましたが、大人になったと実感することはありません。反対に、「まだ子供」といったように思えます。いったい何が基準で大人の仲間

以前からみんなやっているといえるでしょう。だから余計に年齢の変化(十代と二十代)が分からなくなっと思っています。成人式を行って一番思ったことは、5年ぶりに会う

二十歳になり、成人式を迎えたことで、少し大人に近づいていっているのではありません。とにかく、大人の仲間入りしたと自覚を持っていきたいです。



「今何してるの?」「元気だった?」そんな言葉がたくさん聞かれた受付場所



これから、式典が始まります



みんな笑ってハイ、チーズ!

